

令和5年度 第2回 積志中学校運営協議会 会議録（要点記録）

1 開催日時 令和5年9月4日（月）15時15分から16時20分まで

2 開催場所 積志中学校 会議室

3 出席委員 今宿 康一、上野 由紀夫、三輪 清、岡本 知之、林 和法、北 一樹、
太田 亮平、新村 佳子

4 欠席委員 鈴木 健司

5 学 校 森田 忠（校長）、永田 行央（教頭）、高林 昭寿（CS担当）、
北寒寺 知子（CSディレクター）

6 教育委員会 堀田 洋一（教育総務課）

7 傍聴者 なし

8 会議録作成者 CSディレクター 北寒寺 知子

9 議長選出

議長については、第1回目の会議で、本年度は年間を通して林委員に務めていただくことが決定していたため、林委員に進行をお願いした。

10 協議事項

- (1) 第1回学校運営協議会の会議録の確認
- (2) 今年度の取組（学習ボランティア、法被寄贈）についての振り返り
- (3) 休日の部活動指導に参加可能な人材の調査について

11 会議記録

司会から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達するため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 第1回学校運営協議会の会議録の確認

第1回学校運営協議会の会議録を基に、「今年度の積志中学校運営協議会の取組」について、前回の協議会で話し合われた内容を委員全員で確認をした。それと併せて、前回の協議会の後に今年度の取組として実施した「法被の寄贈依頼」「学習支援ボランティアの募集」についての以下のような報告が行われた。

- ・法被の寄贈依頼は、さくら連絡網や地域の回覧板を使って、地域全体に行った。その結果、29人の方から合計78枚の寄贈があった。
- ・学習支援ボランティアの募集は、さくら連絡網や地域の回覧板によって保護者や地域全体に呼び掛けるだけでなく、学区内にある高等学校、大学の協力を得て高校生、大学生に対しても募集を行った。総勢30名（地域住民・保護者：13名、高校生：17名）の方がボランティアとして取組に協力してくれた。

(2) 今年度の取組（学習支援ボランティア、法被寄贈）についての振り返り

① 学習支援ボランティア

- ・学習室の様子を見たが、参加している中学生はとてもまじめに取り組んでいた。（林委員）
- ・高校生は中学生との年齢が近いので、中学生からすると高校生のボランティアの方が話しやすく、相談しやすいのではないかと。（今宿委員）
- ・今後の課題としては、「夏休み学習室」の運営に学校職員の力を借りてしまっているところが挙げられる。来年度は、学習を支援するボランティアと「夏休み学習室」を運営するボランティアを募集する必要があるのではないかと。今回は部活動の顧問の協力も得ることによって、多くの参加者が集まったが、取組を継続していくことで、そのような協力がなくても少しずつ参加者がふえていくとよい。（岡本委員）
- ・社会福祉協議会でも小学生の学習をサポートする取組を行っているが、その取組にボランティアとして参加してくれた方には、小額のギフトカードを謝礼として渡している。今回の取組では謝礼等を出すことができていないので、来年度は何かできることはないかと検討していきたい。（今宿委員）
- ・ポスターを大学の構内に掲示してもらって募集をかけたが、大学生のボランティア参加者はいなかった。大学生に対して周知を図るのはかなり難しい。（岡本委員）
- ・中学生は50分勉強、10分休憩というサイクルの中で、静と動の切り替えができており、素晴らしかった。一般人にとっては、勉強を教えるのはハードルが高いと思うが、活動を継続していくうちに慣れていくのではないかと。また、この取組を通して中学生の学習習慣が少しでも確立できればいいと思う。（上野委員）
- ・受付や事務作業などを行う運営ボランティアは必要だと思う。自分もボランティアとして参加して感じたことだが、日ごとにボランティア参加者も学習室にいる生徒も変わるので、学習時間が始まる前に、ボランティア同士の顔合わせや中学生の前で自己紹介をする時間を設けた方がいいと思う。その方が、ボランティア同士の連携も図ったり、中学生が安心して質問や相談ができる雰囲気をつくったりできるのではないかと。（三輪委員）
- ・運営側のボランティアは絶対に必要だと思う。アンケートの結果や参加者の感想、意見を基にして、来年度はさらにバージョンアップした取組をしていきたい。（林委員）
- ・今年度は小学生の学習室と日にちが重なってしまったので、来年度は開催日を調整して計画したい。期間をずらせばボランティアの参加者も増えるのではないかと。（今宿委員）
- ・中学生にとっては部活動の予定が優先されるので、学習室を開設しても、同じ時間帯に部活動があると生徒は部活動に行ってしまう。この取組には、学校側と話し合って理解と協力を得ることが必要である。（岡本委員）
- ・地域の人と中学生が関わることもこの取組の目的の1つである。中学校をサポートしようという取組に前向きに協力してくれる人が地域にどの程度いるのかは知りたい。そして、そのような人が少しずつ増えてくれれば理想である。（岡本委員）

② 法被寄贈

- ・予想以上の反響があり、学校に協力してくれる人がこんなにも地域に多くいるのかと、とても驚いた。（今宿委員）
- ・法被を多数寄贈していただいたが、数は足りているのか知りたい。（上野委員）
- ・実際に法被が足りるのかについては調査をし、それによって来年度の取組も考えていけるとよい。（林委員）
- ・学習支援ボランティアの募集、夏休み学習室の開催についてのポスターは美術部の生徒が制作を行った。そして、寄贈された法被には、カルチャー部の生徒が番号のタグを縫い付けた。このように、今回の学校運営協議会の取組に対して、積志中の生徒も関わっていることを全校に周知をさせていきたい。（CS担当）

(3) 休日の部活動指導に参加可能な人材の調査について

岡本委員から「休日の部活動指導に参加可能な人材の調査」について、以下のような説明があった。

- ・休日の部活動指導に参加可能な人材が積志中校区にどの程度いるのかということについての実態を把握するためにアンケート調査を行う。この件については、地域の回覧板を利用して広報していく。
- ・Google フォームを利用し、アンケートの回答は10月上旬から随時受付していく。
- ・アンケートの途中経過については第3回学校運営協議会で報告を行う。12月頃にアンケート結果を集計し、第4回学校運営協議会で報告するので、今後の取組の方向性を考えていきたい。
- ・学校が部活動の指導者の確保について苦慮したときに、こちらがサポートできる体制づくりをしていきたい。

岡本委員から提案された実施計画に対して、委員からは以下の発言があった。

- ・軽い気持ちで部活動の指導をしてみたいという方が出てくる可能性もある。本当の意味で指導できる立場の人がいるかはわからない。(今宿委員)
- ・指導法を学校の先生から教えてもらいながら自分も指導をしてみたいと考えている人もいるのではないかと。(林委員)
- ・部活動の指導は、有資格者あるいは最低でも指導歴のある経験者が行ってくれる方がよいと思う。(岡本委員)
- ・過去に指導した経験がある人、競技歴はあるが指導の経験がない人などが出てきた場合に、今の時代にあった指導ができるのかどうか、それができずにトラブルに発展するのではないかとすることは懸念される。(上野委員)
- ・実際に指導を依頼することになった場合には、事前に指導者講習会を開催するなど、指導者のサポートは必要になると思う。(北委員)
- ・指導者のサポートは、部活動の地域移行を進めていく中で、市教委が何かしらの方法を考えて実施するのではないかと。(岡本委員)
- ・指導者ライセンスがある競技ばかりではないので、その点は考慮する必要がある。(三輪委員)
- ・各種目に特化した指導者だけでなく、理学療法士などのように、どの競技にも通じるような専門性の高い指導ができる人がいてもよいのではないかと。(校長)
- ・栄養学やけがをした時の応急処置などを指導できるような人材もアンケートで把握できればよいと思う。アンケートの中に、そのような項目を追加できるとよい。(林委員、北委員)
- ・毎月5日と20日に回覧板を回すので、アンケート回答の開始日を10月5日以降にするとよい。まずは、回覧板とさくら連絡網を使って、この取組を保護者と地域全体に呼び掛けていくのがよいのではないかと。(今宿委員)

協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

その他報告事項等

- ・CS担当より、10月13日(金)に体育大会があり、そこで寄贈された法被の贈呈式を行うので、委員の皆さんには出席してもらいたいという旨の連絡があった。
- ・CS担当より、次回の学校運営協議会は令和5年11月20日(月)15時15分から積志中学校会議室で開催する旨の連絡があった。